

美の散策 #5

落ちこぼれ万歳！

市原尚士

ある組織や体制についていけない人のことを俗に「落ちこぼれ」という。2009年4月に創立された現代美術の企画画廊 eitoeko は、こんな連中が自然と集まって

くる梁山泊だ。

「何らかの理由」があり、他のギャラリーでは発表できなかった作家たち。学生時代は、先生に怒られ続けてきた「つまり、うまく世渡りができない不器用な作家たちを一手に引き受けてきたのだ。美術界の優等生たちの「どうです、かつこいいでしょ？」と小鼻をうごめかしたような展示は一回も開いてこなかった。むしろ、スキヤングラスと受け止められることをあえて選んだ、やや泥臭い展示を継続してきた。

昨年に続き、今回が2回目となる企画展「桜を見る会」は、eitoekoの美質を遺憾なく発揮している。日本の内閣総理大臣が毎年4月中旬に新宿御苑で開催していた税金無駄遣いの一大イベントをアートの祭典に転化した。展示の案内状は安倍前首相の名前で出されたものとそっくりそのまま

実に笑える。展示タイトル通り、何らかの形で必ず桜に関連した作品を並べているのだが、eitoekoが企画しただけに「筋縄ではいかない。」

7人の作家が参加した中でも最大の問題作は、岡本光博が「1996年から発表できずため込んできた作品プランが詰め込まれている」と語る「サクラ」の3作品だろう。

韓国・済州島に設置されている慰安婦像を3Dスキャン、3Dプリントし、金彩を施す。この像を核に据えて、自身が四半世紀にわたって調査研究し続けてきた、日韓関係を巡る膨大なトピックを詰め込んでいる。

作品の形状としては、ジョセフ・コーネル的な箱型の中に多種多様なオブジェが入れられている。マルセル・デュシャンも引用されているので、バタ臭い雰囲気かというところでもない。山下菊二ら日本の前衛の香りも感じさせ、複雑かつ多層的な作品と言える。



岡本光博
「サクラ」3作品 2021年
副題は向かって右から、「日本茜」「38度線」「みよしの」 撮影 宮下夏子

桜を見る会

2021年4月17日～5月15日
eitoeko (東京・神楽坂)

岡本のリサーチは真摯そのものであって、思想的立場が右であろうと左であろうと、謙虚に耳を傾ける値打ちのある労作だ。

2000年生まれの若手期待株、アハメッド・マンナの「超絶簡易式即席型お花見セット」も迫力十分だ。絵画、映像、レジャーシート、土鍋にカセットコンロ、そして本物の植物という取り合わせは、まるで解剖台のミシンと傘の偶然の出会いのよう。あえて、ガチャガチャとにぎやかな印象の作品にしているが、その中に秘め

られた運効性の毒は強力そのもの。見る者の心身をじわじわ侵すかも？

「もの派」の故・吉田克朗とその子息、吉田有紀の父子初共演も面白い。指を使って金泥と墨で描画した不定形の塊を屏風に大きく定着させたのが父。その息子は、全部の木が同じ遺伝子を持つソメイヨシノを木材に着色して表現した作品「クローン」を出品した。マックス塗りと呼ばれるプラモデル塗装の技術を使っており、そのサブカル要素に注目だ。



アハメッド・マンナ
「超絶簡易式即席型お花見セット」 2021年 撮影 宮下夏子



吉田有紀
「クローン」 2021年 撮影 宮下夏子

その他の出品作家は、中村洋子、古屋郁、本間純の3氏。合わせて7作家、思い思いの作品による「桜を見る会」を堪能してほしい。

最後に一言。eitoekoの展示には常にゼロ人目の作家として、画廊ディレクターの癡生川栄も参加している。大学時代は自ら編集長を務めていた同人誌で小説を書いていた。いわば美術の門外漢だったが、友人の美術品オークション事業を偶然手伝ったことから、この業界に。2007年12月、リッソン・ギャラリー（ロンドン）でサンティアゴ・シエラがインドの人糞燃料を大量に並べた展示を見て、「社会に接続するアートを

身をもって体験した」。2020年の「天覧美術」展という過激な企画を敢行したのも、シエラとの邂逅が原体験としてあったからだ。

癡生川の抜群の包容力を慕って、常に奇妙な落ちこぼれたちがここには集まってくる。なんて最高な空間なんだ！

(ジャーナリスト)

2021年3~4月の収穫6展

- ▽大庭大介「絵画—現象の深度」
3月9日～4月3日 スカイザパハウス (東京・谷中)
- ▽李ウンジュ展 BYSTANDER
3月22日～3月27日 ギャラリー繪e・F (東京・京橋)
- ▽伊藤安鐘展「眼(まなこ)開きて尚、現(うつつ)を見ず」
3月2日～3月27日 ガーディアン・ガーデン (東京・銀座)
- ▽岩名泰岳「みんなでこわしたもの」
3月6日～4月24日 タグチファインアート (東京・日本橋本町)
- ▽MEIKO展 4月5日～4月10日 うしお画廊 (東京・銀座)
- ▽コレクション3 見えるものと見えないものあいだ
3月20日～5月30日 国立国際美術館 (大阪・中之島)